

銀閣寺山国有林におけるマツ林再生について



平成22年4月14日
林野庁 京都大阪森林管理事務所

目 次

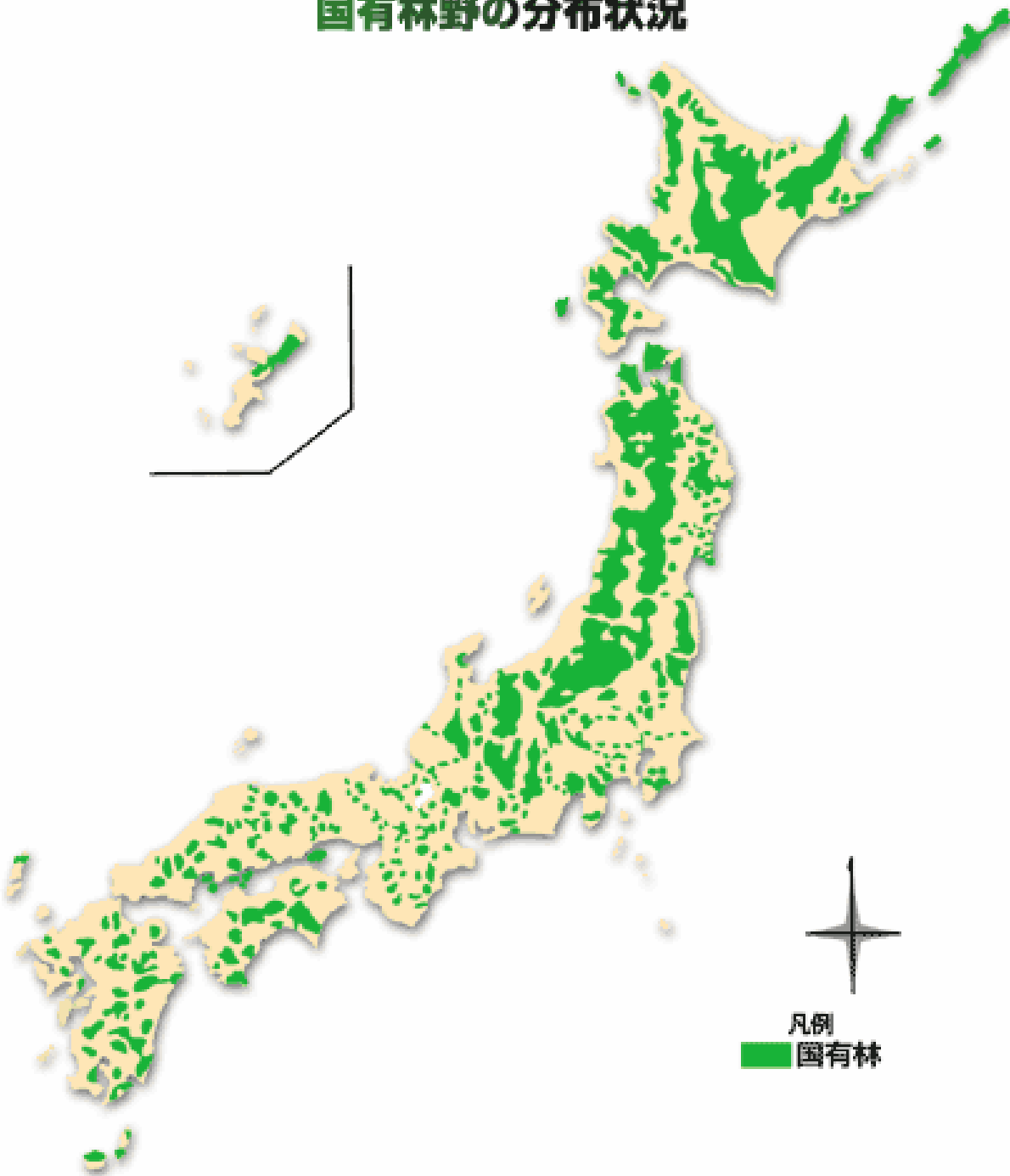
1. 国有林について
2. 京都大阪森林管理事務所について
3. 銀閣寺山国有林におけるマツ林再生について

1. 国有林について

- 日本の国土の約2／3が森林。
- 日本の森林の約1／3が「国有林」。
- 国有林は日本の国土の約2割。

	面積	割合
国土面積	3,700万ha	100%
うち森林	2,500万ha	67%
うち国有林	760万ha	21%

国有林野の分布状況



土地面積に占める国有林率

地域	国有林割合
北海道	37%
東北	32%
北陸	15%
関東甲信越	10%
東海	10%
近畿	3%
中国	5%
四国	10%
九州・沖縄	13%

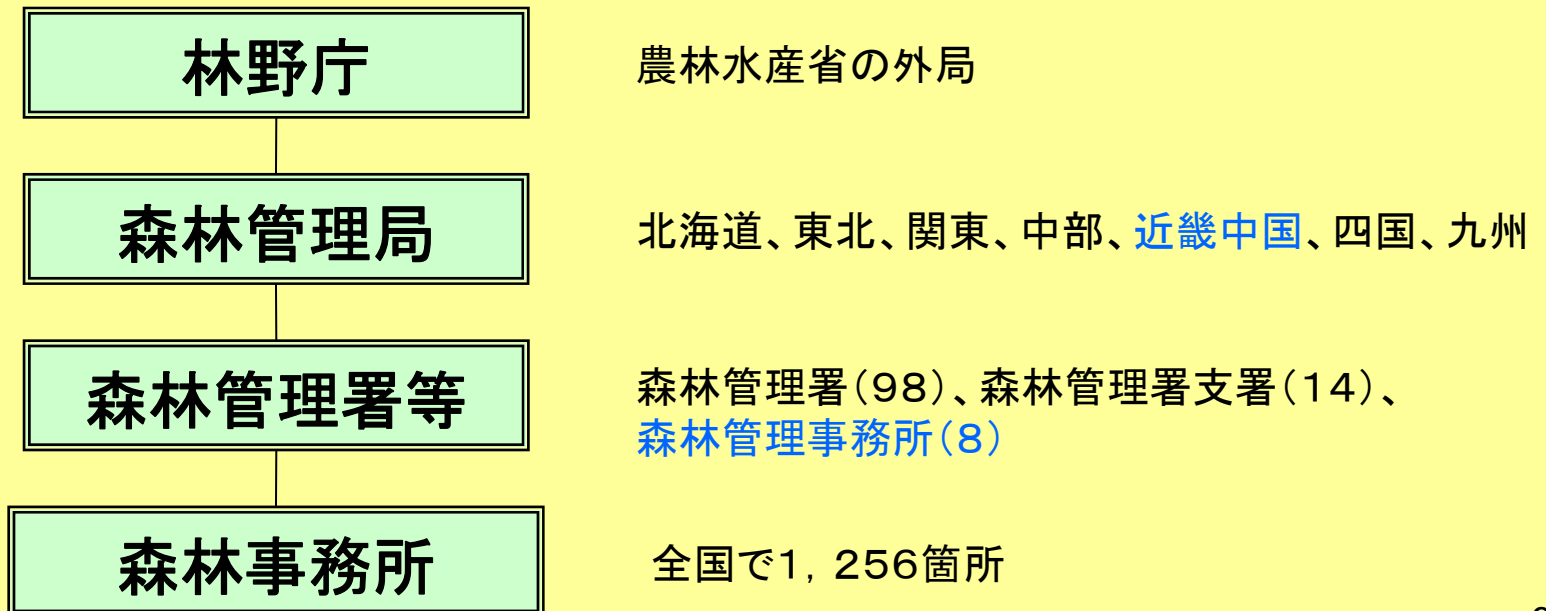
1. 国有林について

(国有林の成立)

- 国有林は、明治2年の**版籍奉還**によって、明治政府が**旧幕藩有林**を承継したことにより成立。
- 明治4年に「**社寺上地令**」により、**旧社寺領**を国有地に編入。
- 明治6年から14年にかけて、地租改正に伴って行われた**土地の官民有区分**により境界確定、**村持入会林**を国有林に編入。
- その他、購入、交換、所管替えなどにより編入。

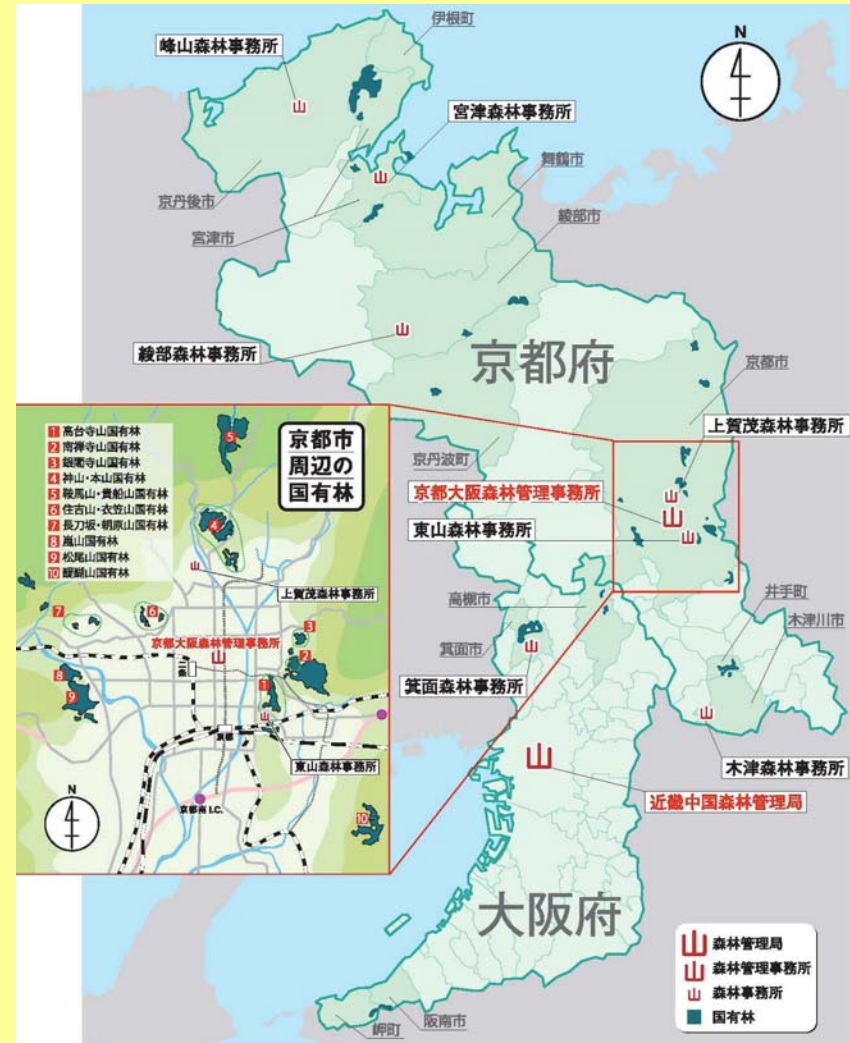
1. 国有林について

- 林野庁が**国営企業(現業)**として国有林を管理経営。
- 林野庁本庁の下に、地方ブロック組織として7箇所の**森林管理局**を設置。
- **森林管理署等**が現場の管理経営を実施。



2. 京都大阪森林管理事務所について

- 近畿中国森林管理局の下部組織。
- 京都府・大阪府に所在する国有林約5,700haの管理経営を担当（森林面積に対する国有林の割合は、京都府で約1%、大阪府で約2%）。
- 管内の国有林は小規模散在。
- 京都市内では、東山、貴船山、嵐山などが国有林、大阪府内では、箕面山などが国有林。
- 森林事務所：7箇所（東山、上賀茂、綾部、宮津、峰山、木津、箕面）
- 職員数：21名



2. 京都大阪森林管理事務所について

- 京都市内には約1,400haの国有林が所在。
- 東山には、清水寺、八坂神社、知恩院、南禅寺、銀閣寺などの背後に高台寺山国有林、南禅寺山国有林、銀閣寺山国有林などが所在。
- 北山には、貴船神社、鞍馬寺の背後に、鞍馬山国有林、貴船山国有林が所在。
- 西山には、天龍寺、苔寺の背後に、嵐山国有林、松尾山国有林などが所在。
- 京都市内に所在する国有林の多くは、明治初期の「社寺上知令」により国有林に編入された旧社寺領。



3. 銀閣寺山国有林におけるマツ林再生について

- (1) 銀閣寺山国有林について
- (2) 松枯れについて
- (3) マツ林再生に向けた取組



(1) 銀閣寺山国有林について

(概要)

- 面積: 23.89ha
- 法令制限: 土砂流出防備保安林、風致保安林、歴史的風土特別保存地区、風致地区、鳥獣保護区
- 「レクリエーションの森」(東山風景林)、「世界文化遺産貢献の森林」に指定。

(特徴)

- 「社寺上知令」により国有林に編入された銀閣寺の旧寺領。銀閣寺庭園の背景林
- 「五山の送り火」の大文字山に隣接。「送り火」行事では、アカマツの割木を使用。
- 京都市内の国有林の中では、比較的多くのアカマツが残存。

→ マツ林再生に取り組み



(2) 松枯れについて

(松枯れについて)

- 「アカマツ」はもともと痩せた土地に生育する樹種。近世までは、**燃材採取などのために集約的な森林利用**が行われてきたため、森林にはアカマツが生育。
- 燃料革命以降、マツ林の利用が行われなくなり、土壌が肥沃化、アカマツの生育に向かない環境へ変化。
- 昭和30年代以降、**マツノマダラカミキリ**の媒介により、**マツノザイセンチュウ**がアカマツを枯死させる被害（松枯れ）が発生。国内のマツは大幅に減少。



マツノマダラカミキリ



マツノザイセンチュウ

(3) マツ林再生に向けた取組

(マツ林再生に向けた取組)

- マツ林は京都の文化と密接な関係。
- 当所では、マツ林再生に向けて、主に以下のような施業を実施。
 - － マツノザイセンチュウによる枯損木の伐倒・薬剤処理(衛生伐)
 - － 松枯れ予防のための薬剤注入(樹幹注入)
 - － アカマツを被圧する広葉樹の除伐
 - － 地表面に堆積した枝葉・腐葉層の除去(地掻き)
- 施業の実施に当たっては、学校・企業とも連携。



広葉樹除伐後の林内



中学生による地掻き作業

(3) マツ林再生に向けた取組

(大文字保存会へのアカマツ提供)

- 「五山の送り火」では、**燃烧時間の関係から、脂ののった80年生程度のアカマツのみを薪として使用。**
- これまで、大文字保存会の共有林から自給してきたが、**松枯れにより、薪材の確保が困難化。**
- 平成20年度に、銀閣寺山国有林のアカマツ枯損木55本を同会に提供。8月の送り火では、**当日燃える薪の1割程度が銀閣寺山国有林由来のものとなった。**



処理済みのアカマツ枯損木



「送り火」の割木

材伐の間林の国有 大文字送り火に

「五山送り火」の一つ、大文字山（京都市左京区）の送り火で松材の不足に悩む地元のNPO法人（特定非営利活動法人）「大文字保存会」が、京都大保存会、松不足で使用
阪森林管理事務所（上京区）の管理する大文字山中の国有林の間伐材を、今年の送り火で初めて使用する。

大文字山を含む東山一帯は松枯れの被害が深刻化しており、同保存会は昨年頃から地元の共有林で伐採した被害木をまきに使うようになった。国有林の被害木を伐採している同事務所でも、伐採木の活用につながるとして丸太五十五本を保存会に販売した。火がつきやすい程度に乾燥したため、同保存会はまきにして使うことにした。保存会の長谷川綾二副理事長（63）は「山を守るために森林管理事務所と連携できるところはほしていきたい」と話した。

送り火に松枯れの薪

大文字山 国、保存会に格安提供

京都市内で18日に行われる「五山送り火」の一つ、「大文字山」（左京区）の送り火で、マツタイムシロコで伐採された国有林のアカマツが薪として使われるようになった。林野庁京都大阪森林管理事務所（上京

区）が、薪の確保を苦慮していたNPO法人「大文字保存会」に格安で提供した。五山送り火に国有林を活用するのは初めてという。大文字山北側に位置する「經閣寺山園有林」（左京区、約24ha）から伐採した

長さ約1材のアカマツ55本。大文字山に使う薪の約1割に相当する量で、一般的に取引価格の1割ほどの値段で払い下げた。大文字山の薪は、保存会が共有林でアカマツを伐採してきたが、近年、松枯れ被害のた

め調達が難しくなっていたという。こうした保存会の現状を知った同事務所が、これまで伐採したまま山に放置していた木材の活用にもなる」と、協力を申し出たという。同保存会の長谷川綾二副理事長（63）は「木材の提供はありがたい。このまま山を放置すれば、いずれ薪を調達できなくなり、国とも連携して山林整備を進めたい」と話している。